



# 2022年度 活動報告書

2022年4月1日—2023年3月31日



特定非営利活動法人 アジア人文文化交流促進協会  
NPO Japan Intercultural Intelligence (JII)

---

お問い合わせ 東京都目黒区下目黒5-27-5  
Tel/Fax: 03-6452-3760  
Email: [info@j-ii.org](mailto:info@j-ii.org)  
[www.j-ii.org](http://www.j-ii.org)

## ビジョン

川は、多様性を活かした「文化共生」の理想を実現するための団体です。

「文化共生」とは---人々がそれぞれの文化の良さを保ちながら、様々な文化の持つ素晴らしさを楽しめる、互いにとって暮らしやすい「良き隣人」として共に生きる、素晴らしい文化同士の出会いによって、新たな公共文化や価値を創造することです。

私たちは、日本に住む外国人を様々な角度からサポートすることにより、暮らしやすい社会づくりを実現し、共に生きる知恵、単一文化では気づかなかった新しい価値の創造を目指しています。



2022年度は上記の助成金を受け活動しました。ご支援頂きありがとうございました

## 目次

はじめに

1. 人文文化体験支援事業（OFP及び関連活動）
2. 情報提供・相談窓口事業
3. 避難民総合支援
4. 自主事業
5. 今後の課題

# はじめに

## 国際的に不安定な状況のなかでも 「個」としてつながることで共生社会は実現できる

---

2022年度は、経済活動や社会活動に深刻な影響を与えた新型コロナウイルス感染症が徐々に収束を見せる一方で、ロシアの軍事侵攻の長期化により、世界情勢は不安定な状況が続いています。

日本では少子高齢化が深刻化する中、外国人の受け入れや多文化共生が社会課題としてより一層認識され、議論される機会も増えました。

そのような社会背景も含め、おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム(OFP)の参加者は大幅に増加し、活動規模は昨年度の倍以上に成長しました。さらに、ウクライナの避難民に対してボランティアで編成されたチームによる支援事業を開始したこと、日本企業に勤務する外国籍社員向けの日本での生活オリエンテーション業務を受注したことは、新たな特筆すべき活動となりました。

避難民の受け入れや外国籍の従業員支援だけでなく、人権問題や子どもの不就学問題、日本語教育機会の不足など日本に暮らす外国人住民の周辺には課題が山積しています。そのように表面化している問題だけではなく、情報不足や孤独感などを日常の中で感じる外国人住民の気持ちに寄り添うOFPの活動は今後もさらに広がっていくことが期待されます。

今年度は事業が大きく飛躍したと同時に、大型の助成が終了したことで、資金や人材の確保をはじめ、運営面での今後の課題が浮き彫りにもなりました。

社会の関心が高まる今だからこそ、運営基盤を固め、様々な価値観が共に生きる社会の糧となるような多文化共生実現のためにさらに尽力してまいります。

2023年6月

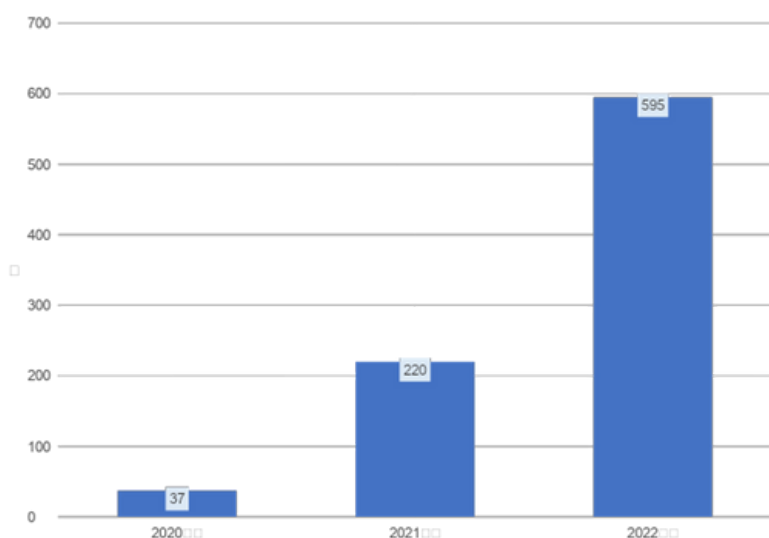
# 1. 人文文化体験支援事業

## おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム (OFP)

OFPは、外国人住民が日本社会になじみやすくなり、文化間の相互理解を深め、共生を促進するコミュニケーションサポート活動です。

参加者は前年度から倍以上に増加し、参加者数は合計595名となりました。おとなりさんボランティア(OV)が351名、外国人参加者(FP)が244名で、申し込みのきっかけについて、従来のインターネット検索に加え「知人の紹介」が多く挙げられました。参加者増加に伴い、プログラム説明会は年間56回開催しました。

OFP参加者数推移



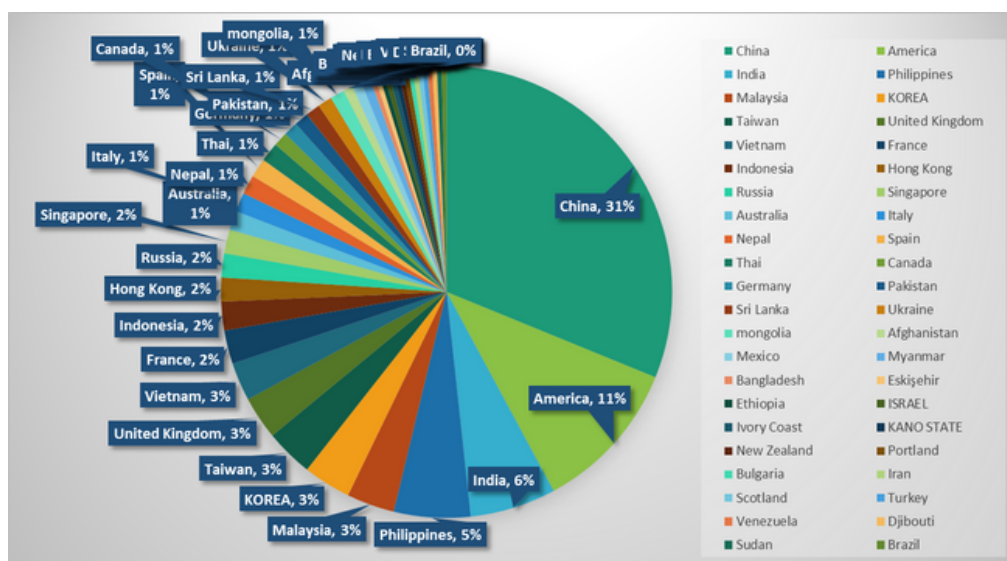
**351人**  
2022年度  
OV参加者数

**244人**  
2022年度  
FP参加者数

外国人住民は40を超える国や地域からOFPに参加しています。東京都在住外国人の比率に概ね比例しており、外国人住民に対する活動として広がっています。

**40+**  
参加国籍数

アジア、北・中・南米、  
ヨーロッパ、アフリカ、  
中東



# おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム (OFP)

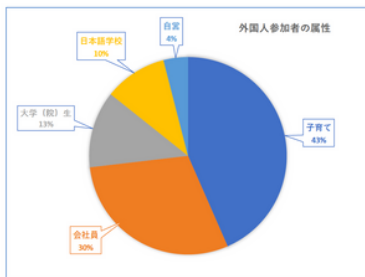
## ◆外国人参加者 (FP)

子育て中の家庭4割、社会人(3割)、学生(日本語学校や大学、大学院)の順に多く、参加の背景には「日本語が不自由なため生活に必要な情報を得にくい」「日本の文化や習慣に慣れることに苦労している」「日本で出産や子育てをしているが情報不足や周囲とのつながりがない」「日本人の友人ができにくく、社会から孤立感や疎外感を感じている」という悩みとともに、自ら日本人とのつながりを作り、日常の困り事を解決し、日本文化や日本社会を理解したいという思いがあります。

## ◆日本人参加者 (おとなりさんボランティア OV)

会社員、子育て中のママ、学生やシニア層など、18歳から70歳まで幅広い年齢層の方が参加しています。「他国での生活経験があり悩みに共感するためサポートしたい」「困っている人を支援したい」「日本語学習のパートナーとしてサポートしたい」「家族ぐるみでの交流を通して異文化を理解したい」など、自分自身の体験を通して得たものや感じたことを生かして、外国人参加者の日本での生活がより充実するようにサポートしたいと願っています。

### 外国人参加者の属性



子育て中 4割  
学 生 2割  
社会人 3割  
その他 1割

### 「おとなりさん」の姿

400+  
Otonarisan

会社員  
子育て中のママ  
自営業  
日本語の先生  
シニア層

司法書士  
大学生  
学校の先生  
主婦  
・・・

Tokyo+

18~70  
age

10+  
Language

## <外国人参加者の声 (日本語訳)>

「おとなりさんのおかげで、日本人に話しかける勇気ができました」  
「自分にぴったりのマッチングで、プログラム終了後も連絡を取り合う素敵なお友達になりました」  
「コーディネーターがとても親切で、私のニーズに合わせてとても良いおとなりさんを選んでくれました」  
「日本語が上達するだけでなく、一緒にごはんを食べに行ったりして異文化交流を楽しむことも出来ました」  
「おとなりさんは自分の仕事に対して情熱を持っており、私も就活生として、好きな仕事を見つけて彼のようなエキスパートになりたいと思うようになりました」

## <日本人ボランティアの声>

「ボランティアは助ける側が労力を要するものという印象がありましたが、参加してみたらこちらが手取り足取り何かをしたわけではなく、たまに話せる良き友人が一人増えたなという感じです」  
「お互い家に招待しあって手料理を振舞ったりして、日本にいながらペアの国の文化を知ることができました」  
「自分がこれまで何の疑問も感じずに通り過ぎてきた小学校の連絡帳や宿題、先生との面談などが、言葉のわからない外国人の方にとっては高いハードルであることを改めて認識しました」  
「ペアと歳は近いけれど全く違う境遇で育ってきたので、交流はとても新鮮でした」

参加者アンケートより抜粋

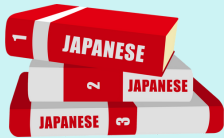
## OFP関連活動

### ■オンライン日本語レッスン



2021年度に引き続き「60-mins にほんごカフェ」を開催しました。4月から月1回で計4回開催し、OFP登録者（OV及びFP）、一般募集の参加者（計18名程度）が参加しました。8月以降は、それまでに出てきた課題をもとにリニューアル企画を進めました（FPへのアンケート実施、サポートボランティアの募集・研修実施）。2023年度は開催方法を検討し再開予定です

### ■日本語学習コンテンツ



日本語教育を受ける機会のない外国人住民が日常生活に必要な会話力を高め、スムーズに生活を送ることができるよう、動画サイトにアップするコンテンツ作成をスタートしました。OFP登録者から作成ボランティアを募集し、2月に企画会議を実施。引き続き利用者の声を反映したコンテンツ制作に取り組みました。引き続き23年度も実施予定です

### ■おとなりさん交流会



OFP参加者同士がオンラインで交流する場として3月にスタートしました。ニュースレターで開催日を事前に告知し、月1回定期的に開催予定です。申込不要、開催時間内入退室自由の気軽な交流の場で、OFPに関する質問や体験談、気になることや相談などなんでも自由に話せる場です。

## 2. 情報提供・相談窓口事業

今年度は主に Facebook 上で外国人住民に役立つ生活関連情報の発信を行いました。また相談窓口を通じて、個別の相談に対して情報提供を行いました

### ■くらしの相談窓口

教育、家庭問題、失業、医療、不動産契約などの相談を計21件受けました。専門家チームと連携し、適切に対応しました。

### ■留学生向け就職支援(MIKATA)

相談、登録、特性診断、個別就職指導などのサービスを提供しており、今年度はSNSで就職に関する情報のリンクを掲載しました。

## 3. 避難民総合支援

(外国にルーツを持つ人々、難民・難民申請者、避難民への生活及び仕事面の総合支援や社会一般の認知や共感を広げるための広報・アドボカシー活動)

### ■ ウクライナ避難民支援

2022年2月に発生したロシアのウクライナへの軍事侵攻に伴い、ウクライナの避難民から直接要請を受け、理事会で議論の上、避難民の受け入れ事業を開始しました。

保証人、在留資格の申請をはじめ、現地での滞在支援や渡航準備、日本国内のウクライナ避難民支援プログラムへの代理申請などを行うと同時に、来日後の滞在先の確保、長期的に住むための住居探しや生活定着支援、子どもの就学支援まで、日本での生活が少しでもスムーズに送れるよう、多岐にわたる支援を行ってきました。

7名のおとなりさんボランティア登録者が避難民家族のサポーターとしてチームを組み、定住に必要な生活支援を行いました。日本語教育経験者の2名が8カ月間、大人に44時間、子どもに28時間の日本語学習支援を行い、2023年度も継続予定です。

ボランティアたちは定期的に該当家族を訪問し、継続的にコンタクトをとりながら、子どもの就学先の小学校とも密に連携し、家族全体の支援を行っています。

## 4. 自主事業

### ■ 外国人社員向け生活オリエンテーション

はじめて日本で暮らし、日本の企業で働く外国人にとって、日本で生活するための日常生活全般の制度や習慣、社会のルールなどは自国のルールや慣習と大きく異なるため、理解し、馴染むまでに時間を要することもあります。企業側も十分なサポートに手が回らない場合があり、生活オリエンテーション事業はそのような企業から依頼を受け、外国籍の従業員に対して生活全般のガイダンスを行うものです。

日本の企業で働く外国人従業員に対して企業内で実施し、2022年11月～2023年10月の期間中に計6回のセッション（10時間）を予定しています。

事務局と企業担当者間で定期的に連絡をとり、近況や就業状況、交友関係などの情報交換を行い、外国人従業員が日本での生活と就業環境によりスムーズに馴染めるよう、継続的にきめ細やかなサポートを行っています。

## ■ 外国人サポーター養成講座

2023年2月、東京都府中市多文化共生センターDIVEが主催する4回シリーズ「外国人サポーター養成講座」に理事が登壇しました。講座では、外国人住民をサポートするボランティアの方々に対して、日本における外国人受け入れの歴史にも触れながら、外国人住民の日常生活におけるニーズや困り事などの具体的な事例を共有し、どのように外国人住民をサポートできるか、グループディスカッションなどを通じて活発な意見交換が行われました。

参加者からは、説明が具体的で分かりやすく、他の参加者の意見を聞くことで視野が広がり、サポーターとしての心構えを学べたと好評をいただきました。

## 5. 今後の課題 次年度の目標

# 1

### 運営体制の強化

活動の拡大とともに増加する参加者に対応可能な運営体制の構築

# 2

### 活動基盤の強化

安定的な活動資金の確保。助成金だけでなく、寄付金・支援金などの呼びかけと周知

# 3

### 活躍の場の拡大

登録者へOFPI以外の活躍の場を提供し、学びや経験を蓄積するとともに継続的な協働関係を構築

# 4

### 自主事業の確立

企業向けに新しいサービスの提供。定期受注につながる事業の立案と実行

今年度は、会費、寄付金、助成金をもって活動できました。文化共生を実現するために、多大なるご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

